

無断持ち出しされた金属くず等の状況

令和5年10月13日

福島地方環境事務所

無断持ち出しされた金属くず等の追跡調査結果

1

- 今回、持ち出された金属くず等を受け入れたとされる2業者に対するヒアリングを行い、追跡調査を実施。
- 売却された金属くず等は、事業者による細断・加工・溶融等の処理を経て、既に製品化されたと考えられ、回収することは出来なかった。
- 金属くず等を受け入れた各社とも通常、線量測定を実施しており、今回のケースも線量が高くないことを確認の上、受け入れられたことが判明（測定データは残されていない）。
- 現場記録により、当時売却された金属くず等は、建物を解体した際に発生した鉄筋コンクリート内の鉄筋等と思われる。このため、現場に仮置き保管中の同一建物から発生した同一性状と思われる金属くず（鉄筋等）の放射能濃度を測定し、無断持ち出しされた金属くずの放射性物質による汚染の状況を推定することとした。



大熊町図書館解体現場状況(2023年5月撮影)



大熊町図書館位置図

- 10月2日、大熊町図書館解体現場に仮置きされている2つの金属くずから、代表性を考慮してそれぞれ10箇所から試料を採取し、ゲルマニウム半導体検出器にて放射能濃度測定を実施。
- その結果、当該**金属くずの放射能濃度は0.5Bq/kg及び0.8Bq/kg**であった。
- これは、廃棄物を安全に再利用できる基準である原子炉等規制法に基づく**クリアランス基準100Bq/kg**を大きく下回っていた。

対象	放射能濃度 (Bq/kg)		
	Cs134	Cs137	合計
金属くず①	<0.4	0.8	0.8
金属くず②	<0.4	0.5	0.5



現場に仮置き保管中の金属くず①



放射能濃度測定試料 (金属くず①)

○また、大熊町図書館解体現場の金属くずの表面線量率を9月20日に測定した結果、0.01～0.03 μ Sv/h（コリメータあり）であり、**周辺の空間線量率と比較しても低い結果**であった。

※コリメータは検出部を包み込む構造をしており、周辺から入射する放射線(バックグラウンド)の影響を軽減する役割を果たす。

測定箇所	空間線量
仮置き保管中の金属くずの表面線量率	0.01～0.03 μ Sv/h（コリメータあり） 0.10～0.12 μ Sv/h（コリメータなし）
金属くず周辺の空間線量率	0.17～0.19 μ Sv/h
大熊町図書館モニタリングポストデータ	0.55～0.63 μ Sv/h



金属くず周辺の空間線量率



金属くず表面線量率測定状況